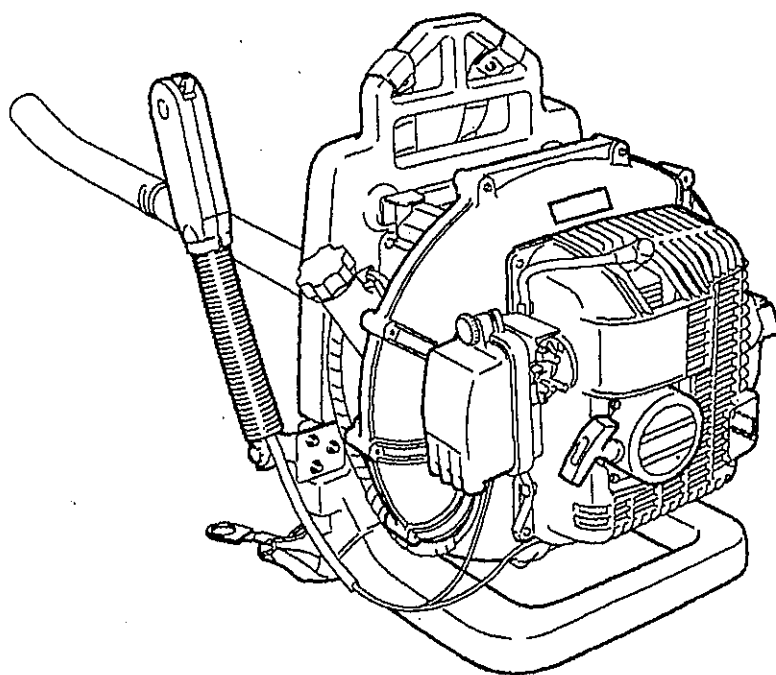


BARONESS

取扱説明書

バロネス スーパーブロー

SB81



⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・パロネス スーパーブロワーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途 (ご注意)

- ・この機械は、軽量・小型に製造された2サイクルエンジン付ブロワーです。
- ・この機械は色々なゴミや落ち葉を吹き払うために使用するものであり、目的以外には使用しないでください。
- ・機械を改造しないでください。
- ・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。
- ・夜間や天候不良など、視界の悪いときは使用しないでください。

取扱説明書について

- ・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。説明をわかりやすくするため、使用しているイラストは現品と異なる場合があります。
- ・単位はS I単位(国際単位系)を使用しています。()内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。
- ・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

- ・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

- ・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- ・本製品は一部部品(フレキシブルパイプ、噴管など)の組立作業が必要となります。
- ・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い求めの販売店にご相談ください。

目次

はじめに	2	操作方法	9
警告表示の意味	3	燃料の取扱い	9
各部の名称	4	エンジンの始動と停止	10
各部の名称とその機能	5	ブロワーの運転	12
組立	6	点検・整備	13
噴管の組付	6	整備の目安	13
正しい作業のために	7	点検要領	13
作業者の体調	7	キャブレタの調整	15
保護具	8	故障診断と対策	16
		保管	17
		長期保管(60日間以上)	17
		仕様	18

警告表示の意味

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。



丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「マーク」のラベルが貼付してあります。ご使用前にマークの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にマークが見える状態を維持してください。

マーク	意味	マーク	意味
	取扱説明書を注意深く読むこと。		回転部に注意すること。
	目、耳、頭の保護具を着用すること。		高温部に注意すること。

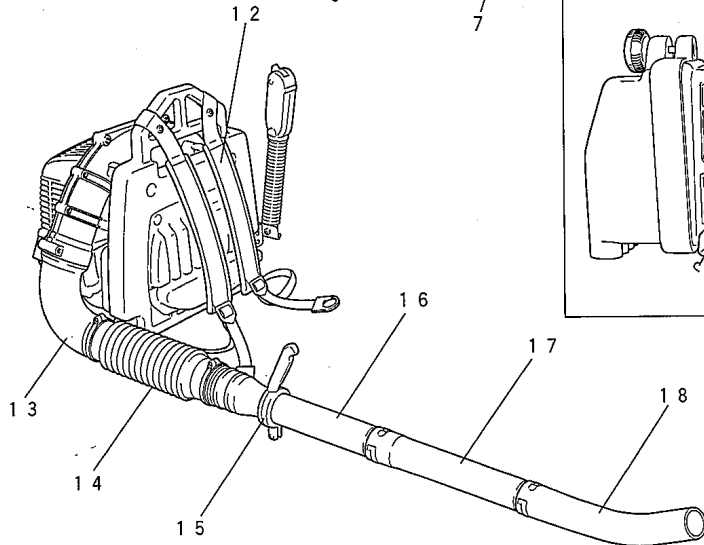
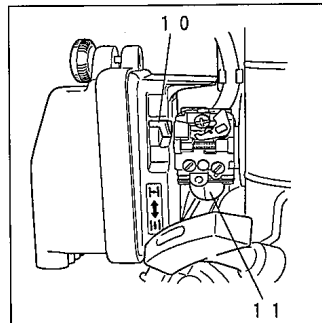
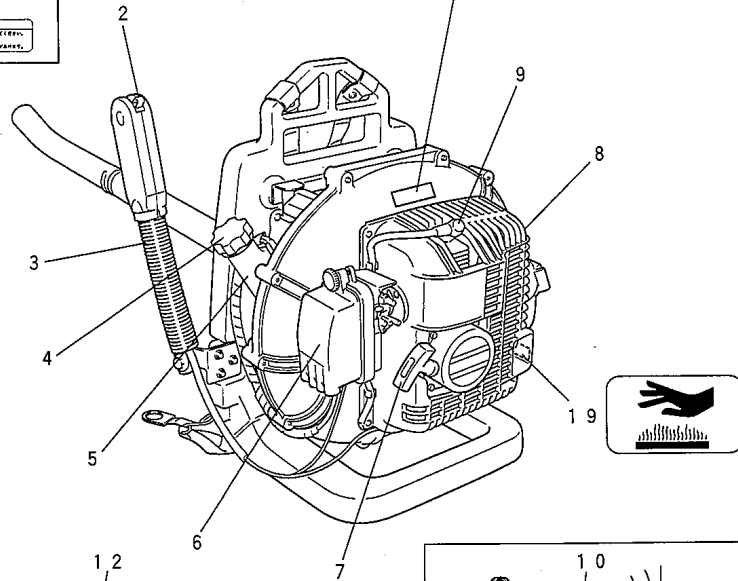
各部の名称



← 1



20



各部の名称とその機能

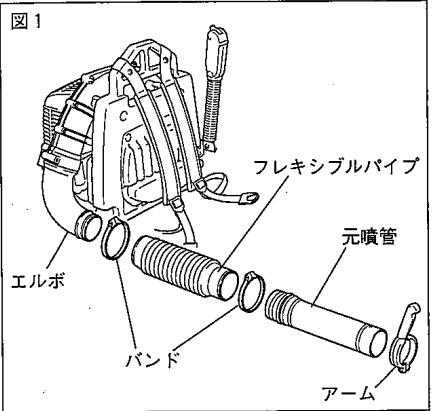
1. 取扱説明書 — 機械をお求めになったとき必ず付いています。機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
2. スロットルレバー — エンジン回転速度を調節するとともに、エンジンを停止させるときのレバーです。
3. スロットル
コントロールアーム — スロットルレバーを操作しやすい角度に調節できます。
4. 燃料タンクキャップ — 燃料タンクを密閉するふたです。
5. 燃料タンク — 燃料を入れる容器です。
6. エアクリーナ — エンジンに供給される空気をきれいにします。
7. スタータグリップ — エンジンを始動するとき使用します。
8. エンジンカバー — 消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。
9. スパークプラグ — エンジンの頭部に組付けられ、燃料に点火するためのものです。
10. チョークレバー — 始動時に燃料と空気の混合比を濃くするレバーです。
11. プライマリポンプ — 始動時にこのポンプを押して、燃料タンクからキャブレタに燃料を送り込みます。
12. 背負バンド — 本機を背負う際に使用します。
13. エルボ — 風の方向を変えます。
14. フレキシブルパイプ — 噴管出口の方向を変えるフレキシブルな噴管です。
15. アーム — 噴管の方向を操作します。
16. 元噴管 — アームを取付けます。
17. 直噴管 — 噴管を接続し長くします。
18. 曲噴管 — 多種・多様なゴミや落ち葉を吹き払う噴管です。
19. 20. 警告表示ラベル — 警告指示事項を示します。
3ページの「警告表示の意味」を参照してください。

組立

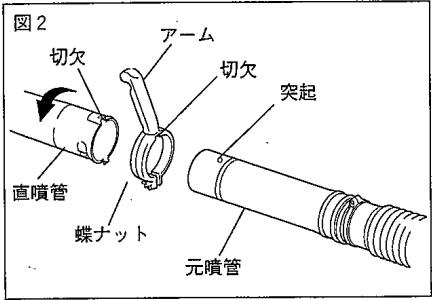
- ・機械を改造しないでください。
- ・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

警告
エンジン回転中に、組立、修理はしないでください。

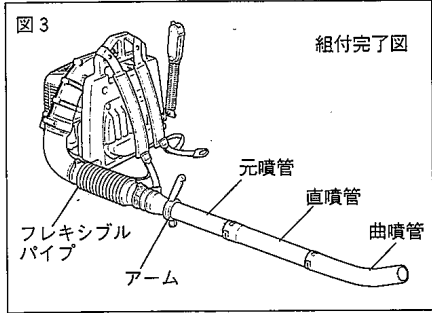
重要
フレキシブルパイプ、噴管を確実に組付けずに、本機を運転しないでください。



- 噴管の組付**
1. エルボにフレキシブルパイプを組付け、バンドでしっかり固定します。
 2. フレキシブルパイプに元噴管を差込み、バンドでしっかり組付けます。



3. アームの蝶ナットをゆるめ、アームの切欠と元噴管の突起を合わせるようにして、アームを組付けます。
4. 元噴管に直噴管を組付け、右回転方向（時計方向）にロックするまで回し、しっかり組付けます。同じ要領で直噴管に曲噴管を組付けます。
5. アームを操作しやすい位置に動かしアームの蝶ナットを手で回して、しっかり固定してください。
6. 最後に、各部分がしっかり組付けられているか、確認してください。

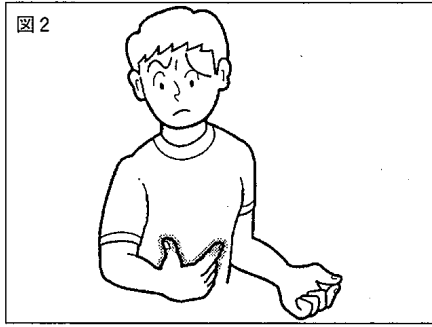


正しい作業のために

注意
・機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。
・子供には使わせしないでください。
・夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないようにしてください。

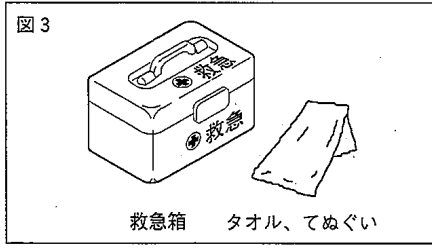


- 作業者の体調**
- ・疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、機械の使用中に疲れた場合は、作業を中断し休憩してください。
 - ・酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
 - ・身体を冷やさないようにしてください。特に手首や手指は保温に心掛けてください。



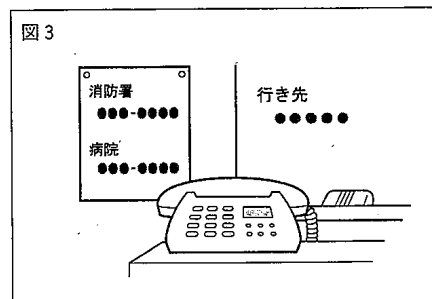
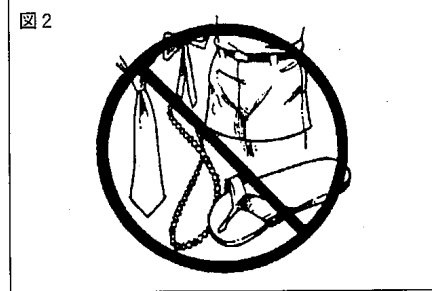
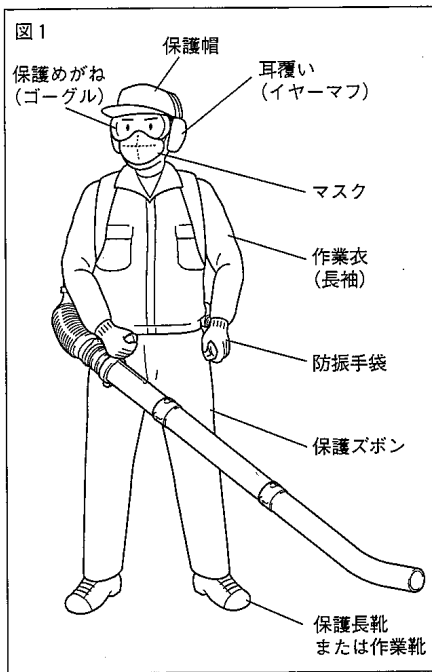
振動と冷え
機械を操作する人の体質によっては、指にレイノー症候群と呼ばれる症状が現われることがあります。これは振動と冷えにさらされることにより起こるとされており、指にチクチクとした痛みや、火傷のようなヒリヒリした痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなります。症状の現われる限度が未解明であるため、特に末梢部は温かく保ってください。

反復作業による傷害
指や手、腕、肩の筋肉やすじを使いすぎると、その箇所にズキズキする痛みや腫れ、マヒ、衰弱、激痛が起こるとされています。手で、一定の反復する動きを長く続けると、反復作業による傷害の危険性が高くなります。定期的に休息をとってください。



ケガへの備え

- ・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
- ・出血をとまなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- ・応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。



保護具

身体を保護する衣服

身体に合った作業衣(長袖)を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、作業衣のすそはズボンに入れること。袖じまりを良くしてください。フリルや飾りヒモは機械や雑草に絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないこと。髪の毛は肩より上でまとめること。(図1、図2)

頭部の保護

作業帽を使用し頭部を保護してください。

目の保護

目の保護に保護めがね(ゴーグル)を着用してください。日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね(ゴーグル)などの目を保護するものを付けてください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。耳覆い(イヤーマフ)や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

手の保護

防振手袋を着用してください。柔らかい革のものは、握りをより確実なものにできます。

脚全体の保護

底に滑り止めのあるゴム長靴などを履いてください。つま先のあいた靴、サンダルやはだしで作業しないでください。

身体の保護のためのその他の事項

- 防塵マスクを着用し、粉塵を吸わないようにしてください。
- 保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
- 万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署(救急車)の電話番号を明確にしておいてください。特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点(住所、目標となる建造物など)も明確にしておく、的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法(黒板に作業現場をメモするなど)を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。
- 作業現場には、呼子(笛)を携帯してください。

操作方法

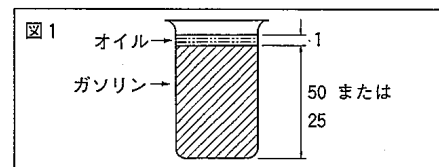
危険

- 引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したり、しないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械を身体から離し、まず、身体の安全を確保してください。
- 燃料を補給する際は、ポンプを使用し、機体が安定した状態で、給油口からこぼれないように注意して補給してください。傾斜地では補給しないでください。機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

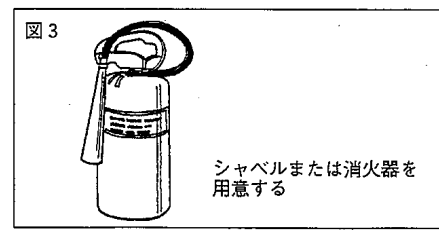
燃料の取扱い

重要

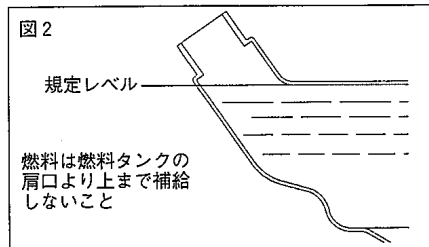
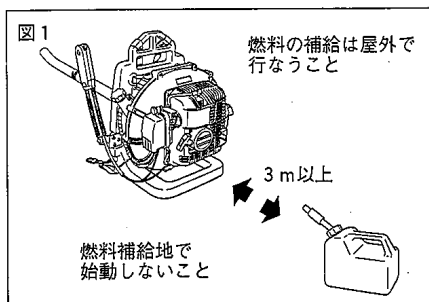
- 混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。燃料の混合は、機械の燃料タンクで行なわないでください。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップ、ブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
- JASO性能分類: 2サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にFC、FB、FAの3種類に分類し表示します。共立純正2サイクル専用オイルは「FC」で、混合比「50:1」で使用します。



ガソリン L (dm ³)	2サイクルエンジンオイル mL (cm ³)	
	50:1	25:1
4	80	160
8	160	320
20	400	800



- 本機の燃料にはレギュラーガソリンと、2サイクルエンジンオイルを混合した燃料を使用してください。正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。
- 燃料の混合比は、2サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。
 - 共立純正2サイクル専用オイル ;[50:1] JASO性能分類 FC
 - 2サイクルエンジンオイル ;[25:1] JASO性能分類 FB、FA
- ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。
- 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。草木などに類焼しないよう注意してください。シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。



警告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。



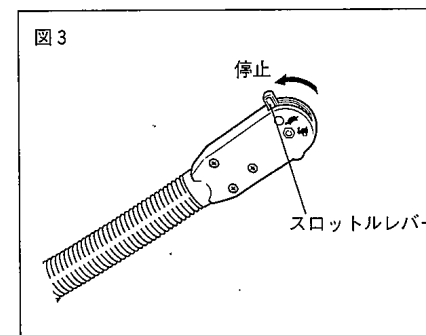
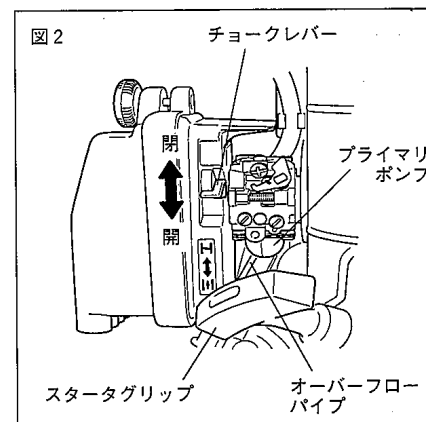
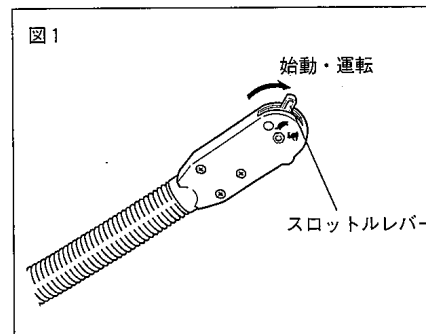
- 燃料タンク内には、外気との間に圧力差が生じています。燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- 燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。屋内では燃料を補給しないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 燃料は規定レベル（燃料タンク肩口）を超えて補給しないでください。（図2参照）
- 燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。
- エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から3m以上移動してください。
- 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。

エンジンの始動と停止

- 注意**
- ・ エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
 - ・ 燃料が漏れているか確認してください。
 - ・ 機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。
 - ・ 機械は地面にしっかりと押え、始動してください。
 - ・ エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、スロットルレバーの点検をしてください。

重要

- ・ 噴管なしで運転されずと正規の回転が上がらないだけでなく、エンジン不調の原因となります。
- ・ 燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- ・ スタータグリップを引くときは、まず軽く引き出し更に素早く引いてください。引き紐の2/3以上は引き出さないでください。
- ・ スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。



冷えたエンジンの始動

1. スロットルレバーを始動・運転方向にします。（図1参照）
2. オーバーフローパイプに燃料が見えるまで、プライマリポンプをくり返し押してください。
3. チョークレバーを「閉」の位置にしてください。（図2参照）
4. エンジンの最初の爆発音がするまで、スタータグリップを数回引いてください。
5. 爆発音がしたらチョークレバーを「開」の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。
6. 始動したら低速のまましばらく暖機運転をしてください。

暖まっているエンジンの始動

1. チョークレバーは「開」の位置にしてください。
2. スロットルレバーを始動・運転方向にします。
3. 燃料タンクがカラでなければ、エンジンが始動するまでスタータグリップを引いてください。
4. 燃料タンクがカラの場合、燃料を補給した後、プライマリポンプをくり返し押してください。
5. スタータグリップを引いて始動させてください。2～3回スタータグリップを引いてもエンジンが始動しないときは、冷えたエンジンの始動の要領で始動してください。

エンジンの停止

1. スロットルレバーを低速の位置に戻し、エンジンをアイドリング（低速回転）状態にしてください。
2. スロットルレバーを停止の位置にします。（図3参照）
3. 緊急の場合は、直ちにスロットルレバーを停止の位置にしてエンジンを停止してください。
4. エンジンが停止しないときは、チョークレバーを「開」の位置にしてください。（図2参照）エンジンは失速し停止します。機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にスロットルレバーの点検と修理を依頼してください。

長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。

ブロワーの運転

▲ 警告

いつもゴーグルを着用し、マスクを使用してください。(この取扱説明書の8ページの保護具の項目を注意してお読みください。)

図1

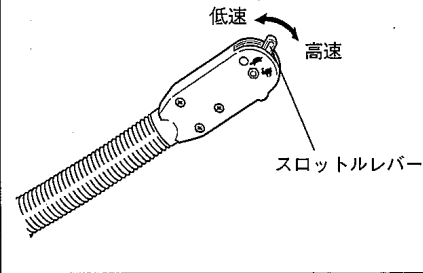


図2

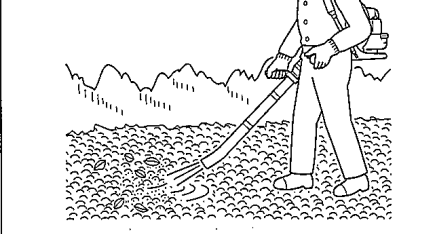


図3



図4



重要

- ・スロットルレバーで回転を調整すると、風速も回転に応じて変化します。スロットルレバーを作業に合った位置にセットすると、一定の風速で作業できます。
- ・本機は、2,600～6,500r/min(rpm)で運転されます。従って、風速も低速から高速までお望みの風速でご使用になれます。庭の枯れ葉からスタジアムの空缶・空瓶まで幅広い作業が可能です。
- ・エンジンの過回転による損傷を防ぐため、噴管はふさがないでください。

1. 2～3分間低速で、エンジンを暖めてください。

2. 枯れ葉や花壇のゴミ・枯れ草などを掃除する場合は、低速で作業してください。

3. 歩道、中庭、車道などを掃除する場合は、余裕のある中速で作業してください。

4. パーキングエリアやスタジアムの空缶・空瓶などを掃除する場合は、余裕のある高速で作業してください。

点検・整備

▲ 注意

点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。

整備の目安

- 製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整備箇所	整備	掲載ページ	使用前	毎月	毎年
エアフィルタ	点検/交換	14	●		
燃料フィルタ	点検/交換	14		●	
燃料パイプ	点検	13		●	
スパークプラグ	点検/清掃と調整/交換	14		●	
キャブレタ	点検	15			●
シリンダフィン(冷却系統)	点検/清掃	14	●		
マフラ	点検、増し締め/清掃	15	●		
燃料系統	点検/修理	13	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め/交換	—	●		

▲ 警告

エンジンが回転しているときは、エンジンと背当ての間に絶対に手を入れないでください。風圧によって手が引き込まれ指にケガをすることがあります。

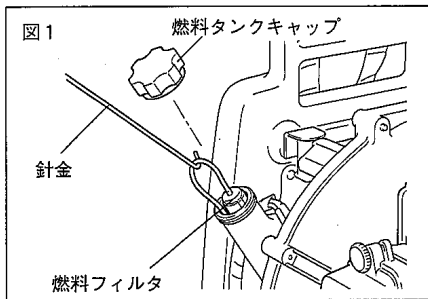
重要

- ・燃料フィルタが汚れているとエンジンがスムーズに始動しなかったり、エンジン性能が低下したりします。
- ・詰まった燃料フィルタは、始動困難、エンジン出力低下の原因となります。
- ・燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届ていることを確認してください。
- ・燃料タンクは、清潔にしてください。ゴミや塵をタンクに入れないでください。
- ・エアフィルタが非常に汚れていたり、破損している場合は交換してください。
- ・使用後は必ずエアフィルタを清掃してください。
- ・エンジン冷却風の入口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まるとエンジン焼き付きの原因となります。
- ・スパークプラグは締付過ぎないようにしてください。
- ・シリンダ排気口とマフラのカーボンの堆積は、エンジン出力低下の原因となります。マフラの出口を点検してください。
- ・ご不明の点についてはお買い求めの販売店にご相談ください。

点検要領

燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクガスケット

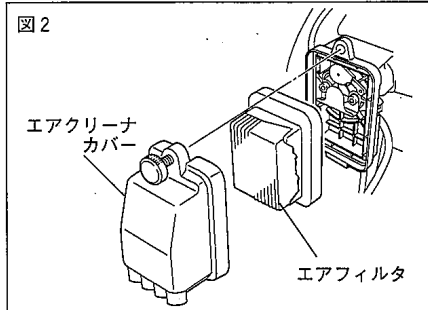
- ・ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、キャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
- ・燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
- ・燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。



燃料フィルタの交換

ご使用前に点検してください。(図1参照)

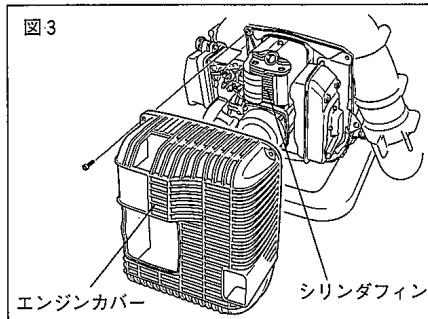
1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などで燃料フィルタを引っ掛け、燃料タンクの給油口から取出してください。
3. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
4. 燃料パイプから抜き取って新しい燃料フィルタと交換します。
5. 燃料タンクの給油口から燃料フィルタを入れて、燃料タンクキャップを締めてください。



エアフィルタの清掃

ご使用前に点検してください。(図2参照)

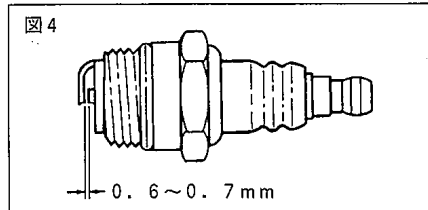
1. チョークを閉じてから、エアクリーナカバーを外してエアフィルタを取外します。
2. エアフィルタのゴミを落としてください。
3. エアフィルタをクリーナケースに戻し、エアクリーナカバーを取付けてください。



シリンダフィンと冷却系統の保守

ご使用前に点検してください。

1. スパークプラグキャップを外し、エンジンカバーを取外してください。(図3参照)
2. シリンダフィン間のゴミと汚れを取除いてください。

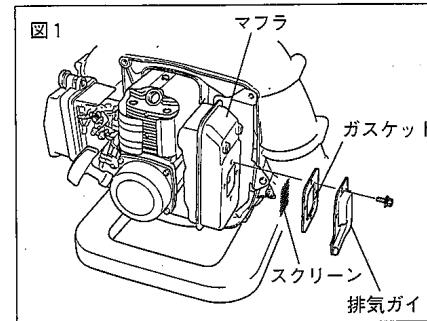


スパークプラグの点検

月に一度は点検してください。

1. 付属のソケットレンチ(19mm)でスパークプラグを外してください。
2. 電極が減っているとき、すぎ間不良のとき(正しいすぎ間は0.6~0.7mm=ハガキ3枚分の厚さ)、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。(図4参照)
3. スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
参考：締付けトルクは15~17N・m
(150~170kgf・cm)です。

- 発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。



マフラの点検

1. スパークプラグキャップを外し、エンジンカバーを取外してください。(14ページ図3参照)
2. マフラから排気ガイド、ガスケットとスクリーンを取外し、排気出口のカーボンを取除いてください。エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に行ってください。(図1参照)
3. スクリーン、ガスケットと排気ガイドをマフラに取付けてください。
4. マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、六角レンチで増し締めをしてください。

重要

- ・工場出荷時にキャブレタは最高の性能が引き出せるよう設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの調整をしてください。
 1. エンジンが始動しない
 2. エンジンが停止する
- ・スロー調整ネジは締め過ぎないこと。強く締め過ぎるとキャブレタを破損します。
- ・不必要にキャブレタは、調整しないでください。
- ・調整をするときは、いつも噴管を付けて行ってください。
- ・スロー調整ネジは、エンジンが、停止しないように再調整してください。

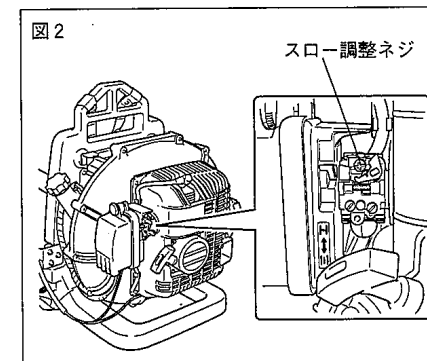
キャブレタの調整

キャブレタ調整を行なう前に、エアクリーナの清掃/交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

スロー調整ネジ

低速時のスロットルの開度を調節します。アイドル(低速回転)の回転速度を調整するときは、キャブレタ本体のスロー調整ネジを回して調整してください。(図2参照)

- 調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。



故障診断と対策

警告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。

- 燃料タンクに燃料が入っていること。

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランク軸が回転する →	キャブレタの燃料 ↓	キャブレタに燃料がない	● 燃料フィルタの目詰まり ● 燃料系統の目詰まり ● キャブレタの不良	● 清掃 ● 清掃 ● 販売店へ
	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	● キャブレタの不良	● 販売店へ
		プラグが燃料で濡っている	● 空燃比（空気と燃料の混合比）が濃すぎる	● チョークを開く ● エアフィルタ清掃/交換 ● キャブレタ調整 ● 販売店へ
	プラグコードの先端で発火する →	プラグコードの先端で発火なし	● 電氣的故障	● 販売店へ
	スパークプラグは発火する →	スパークプラグが発火しない	● 電極の隙間が正しくない ● カーボン（炭素）の堆積 ● 燃料による汚れ ● スパークプラグの不良	● 0.6～0.7 mmに調整 ● 清掃/交換 ● 清掃/交換 ● 交換
クランク軸が回転しない			● エンジン内部の故障	● 販売店へ
エンジンは始動する ↓	持続しない、または加速不十分 ↓		● エアフィルタの汚れ ● 燃料フィルタの汚れ ● 燃料通路の詰まり ● スパークプラグの不良 ● キャブレタの不良 ● 冷却装置の詰まり ● 排気口/マフラ出口の詰まり	● 清掃/交換 ● 交換 ● 清掃 ● 清掃、調整/交換 ● 調整 ● 清掃 ● 清掃

保 管

警告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管（60日間以上）

機械を長期間（60日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

1. 燃料タンクを完全にカラにしてください。
 - A. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
 - B. プライマリポンプを数回押し、プライマリポンプの燃料を抜きます。
 - C. エンジンを始動し、自然に停止するまで運転してください。
2. スロットルレバーを停止位置にしてください。
3. 機械の外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
4. 本書に定められた定期的な点検をしてください。
5. 機械の全ての部分を検査し、調節してください。
 - A. 必要ならば、掃除をし、修理をしてください。
 - B. サビ止めに金属部分には薄く油を塗ってください。
6. スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ1/2杯の、新しくきれいな2サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
 - A. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
 - B. スタータグリップを2、3回引いて、エンジンオイルをエンジンに行き渡らせてください。
 - C. スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止まるようにしてください。
7. スパークプラグを取付けてください。（スパークプラグキャップは接続しないでください）
8. 機械を乾かし、子供の手の届かないホコリのない場所に保管してください。

仕 様

メ モ

項 目	単 位	SBB1
質量 (燃料除く)	kg	9.8
容量 燃料タンク	L (dm ³)	1.9
外形寸法 (フレキシブルパイプ、噴管類除く) 長さ × 幅 × 高さ	mm	350 × 525 × 480
エンジン 形式 排気量 キャブレタ 点火方式 スパークプラグ 始動方式	mL (cm ³)	空冷2サイクル単シリンダ 44.0 ダイヤフラム式 フライホイールマグネット：CDI方式 NGK BPM 7 8Y リコイルスタータ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：2サイクルエンジンオイル] ・共立純正2サイクル専用オイル JASO性能分類 FC ;[50:1] ・2サイクルエンジンオイル JASO性能分類 FB, FA ;[25:1]
送風機 基準回転速度 送風機最大風量 送風機最大風速 吐出パイプ径(曲噴管)	r/min(rpm) m ³ /min m/s mm	6,500 10.8 7.8 58

*この仕様は予告なしに変更することがあります。



株式会社 共栄社

〒442-8530

TEL(0533)84-1221(代)

愛知県豊川市美幸町1-26 FAX(0533)84-1220